ゴミ棄て場の実態を見て

七夕地域分会　佐保利雄

こんなに広大な土地がすぐ隣りにあるのに、なぜゴミ棄て場がないのだろうか。どう考えてもおかしい。そこは三井の土地である前に、大牟田の土地のはずだ。

三井はゴミ棄て場ぐらい大牟田市に還元すべきだ

三百間ゴミ棄て場。

思ったより狭い棄て場で、予定埋め立ての高さにはすぐなり、上積みしてもその量は極少であることは明白であり、あの状態になるまで次の予定地の準備をしなかったことは行政怠慢もはなはだしい思いがした。

三号桝、四号桝と広大な埋め立て地が隣りにあるのを見て、何との桝で四、五年は確保できると聞いて、なおさら最適であることを確認した。

なぜ三井鉱山は、埋め立て地の一部でも提供しないのか。大牟田市の住民は、何らかの形で三井に奉仕している。三井もそれに対して、少しぐらいの還元はすべきで、ゴミ棄て場の提出ぐらい当然なことである。

宇部や徳山の埋め立て地は、その六〇パーセント乃至七〇パーセントは、市有地として使用することができると聞いて、大牟田市政の企業との癒着を見る思いがした。

大牟田市乃至は近郷にゴミ棄て場が無いことがはっきりしている以上、三百間埋め立て地を強力に、市長は交渉して早期に実現すべきだ、と怒りがこみあげてきた。

健老町の焼却場を見た。良い施設であるように見受けたが、近隣からの苦情があるとすればまだまだ不完全である。

またフル運転を連続すれば、オーバーホールの回数も自然と増し、ゴミが蓄積して、ゴミ戦争になる。もう一箇所設備する必要を感じる。場所は、三百間埋め立て地とすることである。

帰りに、町のあちこちにゴミの山が積まれていた。町の美観をすごく害し、衛生上にも悪い。大牟田市民は総決起して、市の行政の怠慢を糾弾すべきだ。

終りに、市職の同志のゴミ収集の作業実態のフィルム（映画）を見て、その作業の丁寧さと困難さ、かてて悪条件下黙々として清掃仕事。つまり市民への奉仕に頭の下がる思いがした。ステーション方式には絶対に反対し、いまの大牟田が行なっている方法を持続すべきであると思う。市職が行なう市政に対する闘いと要求に全面的に協力し、大牟田の明日の市政を明るくする闘いを、みんなとともにすすめていきたいと思う。

お知らせ

ご承知のように第三回退職記念東京旅行（九月三十日―十月六日）が、すでにすみました。ご投稿をいただいておりますが、本号は予定稿でいっぱいでしたから、次号にマンガや写真などといっしょに紹介することにいたします。ご期待ください。

――編集部

詩　〝三池の〝由来

大阪・高槻市　西川嘉一

地名には由来があるというが
三池はなんで三池というのか
ある日息子がわたしにきいた
ちょっと話しがながくなるが
それでは三池の由来を
話してみよう

ずっと昔から
大牟田と荒尾には
池が三つあった
第一の池にはみんななかよく
いっしょになって
しあわせを求めて
友情と助け合いの暖い心で結ばれた
魚のグループが住んでいた

第二の池には
他人をけ飛ばして
自分だけうまいものを食い
自分たちが生きているのは
池の持ちぬしのおかげだという
ドレイ根性の魚のグループが住んでいた

第三の池には
ひとはひとおれはおれ
オトコ一匹おれは生きるんだ
うるさいことはきらいなんだという
魚のグループが住んでいた

一

ずっと昔から
大牟田と荒尾には
池が三つあった
第一の池にはみんななかよく
いっしょになって
しあわせを求めて
友情と助け合いの暖い心で結ばれた
魚のグループが住んでいた

第二の池にだけたっぷりとエサを投げ与え
ひどい差別をやり出した

そこでたまりかねた第三の池の魚は
いつの間にかほとんど第二の池にうつってしまい
第一の池からも
飢えにこらえかねた魚がちょっぴり
第二の池へとうつっていった

池の持ちぬしはことのほか欲深かで
エサさえ投げ与えれば魚どもは
立派に生きていくとばかり思いこみ
かんじんの
池の水をきれいにしていくことをサボリよった
そのため

それから三年過ぎた秋の或る日
のたそがれどき
数百匹の魚はついに
ばんこくの恨みをのみながら
死んでいった
カタワになった魚は数知れず
そこには第一の池の魚も
第二の池の魚もなかった

その日から早や十三年
第一の池と第二の池とを結ぶ疎水では
第一の池の魚と
第二の池の魚とが
いつしかあいさつを交わすまでになってきた
五年先か　それとも
十年先か知らないけれど
わたしは
二つの池がきっと一つになることを確信している
人がそのとき一つになった池のことをいうだろう

二

その三つの池は　実は
一本の大きな疎水で結ばれた
一つの池でもあったのだが

一九五九年の冬のことだった
池の持ちぬしは
池の水量が減ったので
このままでは池の魚が全部死ぬからといって
千二百匹の魚をつかまえて
池のそとへと投げ棄てた

それからというものは池の持ちぬしは
統一の池
団結の池
抵抗の池
と
息子よ
それがわたしの三池の由来だ

×

西川さん大変ありがとうございました。これからも、よろしくお願いいたします。どうか、お元気でがんばってください。

なお、西川さんのお住まいは「大阪府高槻市芝生町二丁目一四ノ四」です。別の詩〝盆おどり〟の方は、割愛させていただきます。少し、季節がはずれました。お許しください。

――編集部

石炭インター参加報告

社会主義国では自国石炭の大増産　(1)

本部執行委員　宮本文男

第七回の世界労連、鉱山・石炭労働組合インターがルーマニアのブカレストで開催されることになり、炭労本部から里谷委員長、三井芦別から村上保安委員、三池から私が派遣されることになりました。

その後炭労本部は、北海道の北炭問題で里谷委員長が行けないということで、急きょ本間執行委員と交代し、三名が炭労代表として九月六日午後一時、羽田発のソ連航空アエロ・フロートで出発しました。

途中日本海を北上し、シベリヤに入り、西へ西へと太陽を追って飛行する訳ですが、シベリヤは十時間の飛行中にただ見渡す限り大平原で、人家も畑も全く見当らず、ただ広漠とした原野に時どき川の光るのみで、余りの広さに驚きました。

七日午前〇時、現地時間午後六時モスクワ空港に到着。ソ連の鉱山労組の出迎えをうけ、モスクワ市内を見学したあと、午後七時より労組書記長と会食し、スプートニク・ホテルで宿泊しましたが、夜間は九月初めというのにかなり冷え込み、日本の十二月初め頃の寒さでした。

七日午前八時五十分、アロエフロートでブカレストへ立ち、十一時十五分到着しました。

空港は警戒厳重で、武装兵が自動小銃の引き金に手をかけて警備している中を、労組幹部の出迎えで貴賓室のような、立派な部屋に入りましたが、炭労で依頼した通訳が到着しておらず、全く言葉が判らないので、午後六時にロンドンから日本人通訳が来るということを判らせるのに、手まねを交じえて一時間もかかる有様に困ってしまい、通訳が来た時は本当にほっとしました。

社会主義国であるルーマニアでは、党、軍、労働組合というように最高の指導機関であり、労働組合の力量の大きさは、空港に入ってすぐよく判りました。

その日は新しいバーク・ホテルに宿泊し、その後会期中はずっとここが宿になりました。

八日より、国営印刷所の壮麗なシャンデリヤの輝く会議場で、四年前の第六回ソフィア大会を受けて、第七回大会が十二日まで開催されました。

参加二十一カ国、四十の組合代表百五十名が参加し、ルーマニア鉱山労組代表、ルーマニア政府・炭鉱関係大臣の歓迎あいさつがあり、午後より一般論議に入りました。

各国より出された主な問題は

A、①石炭鉱山産業を守るために。②雇用保障及び権利確保。③賃金上昇及び労働諸条件と労働時間の問題。④移民労働者の問題。⑤年金・社会保障及び労働者の健康管理について。⑥労働組合の諸権利の拡大。⑦発展途上国労働者の課題。

B、技術革新の進歩に遅れを取らないための最新技術の習得。特に若年労働者の教育。

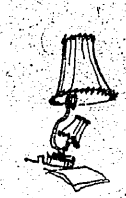
C、エネルギー転換の問題について。

資本主義国を中心にエネルギー転換を行ない、多くの石炭鉱山をつぶし、労働者が多数解雇されたが、社会主義諸国は、自国のエネルギー生産、特に石炭を重視し増産に努力してきた。現在世界のエネルギー危機に直面しつつある資本主義各国の現状からみて、社会主義国の政策は正しかった。

D、政治の問題として。①社会主義国の躍進と、資本主義国におけるインフレなど政策の誤りが、国民生活への圧迫となっている。②中東問題、ラテンアメリカ問題、特にチリに於ける労働者への弾圧に対する抗議の表明。③社会主義国間の自主性を尊重した連帯の強化、平和共存、国際的な労働運動の前進を強く訴える。

×

炭労は石炭分科会に入り、討論に参加した。

その後会計委員会の報告、立候補委員会の報告があり、役員改選の結果、委員長にポーランド（再選）、事務局長にフランス（新任）が選出され、アピールを決定。最後に閉会のあいさつがルーマニア炭鉱労働組合委員長よりあって、六日間にわたる会議が終りました。

（以下次号）